



地域支援センター「みみらんど・郡山」

平成27年度 きこえとことばの基本研修会



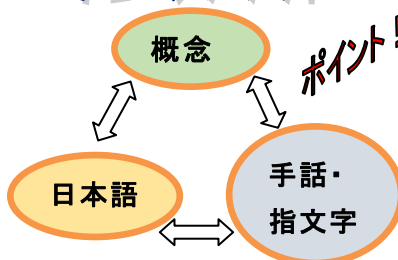
第3回 ①「手話について」

8月20日(木)に第3回きこえとことばの基本研修会が行われ、前半は、中村 孔一教諭が自身の体験も交えながら「手話」をテーマに分かりやすく話をしました。

講義の主な内容

- ① 手話の3つのタイプ
- ② 聾教育における手話の意義、位置づけ
- ③ 手話の有効的な活用の仕方
- ④ 身に付けると良い手話表現
- ⑤ 中村はどうやって日本語を身に付けたのか

チェーンメソッド



1. 手話の3つのタイプ

- ①日本語対应手話
・音声日本語の語順に従い、話し言葉に対応して使われる。日本語の伝達効率を高めて、日本語による学習効果を高めようとする方法。
- ②日本手話
・長い歴史を経てろう者の集団の中から自然にできた言語。視覚言語として即時性に富み、心理的安定を得られやすい。
- ③中間手話
・一番多く使われている。①と②の折衷で生まれた。

2. 手話の意義・位置づけ

- ①心理的に安定した人間関係
・円滑なコミュニケーション
- ②学習の推進、情報保障
- ③積極的な社会参加
・自信をもって活躍できる
- ④自己概念の形成、集団帰属意識の発達

3. 手話の活用の仕方

- ①チェーンメソッド
・「概念」「日本語」「手話・指文字」の3つのつながりが大切
- ②教科学習での手話の活用
・専門用語の手話化が学力の定着へ
- ③会話を大切にした言語指導の仕方
・子どもたちの実態に合っているか
・多様なコミュニケーション手段の活用

4. 身に付けると良い表現

- ①顔の表情(非手指動作)
・様子を表す表情
- ②程度(強弱)
・身振りの大小による程度の表現
- ③指差し
- ④位置、方向・空間表現

9歳の壁をいかに乗り越えて生活中心の学習から、本格的な教科学習に移行するかが課題

5. 中村の場合

- ①意識したコミュニケーション
・他者とのかかわりを通して、言葉のインプット、アウトプットを繰り返す
- ②集団の中での活発なコミュニケーション
・他者とのかかわりが不可欠
- ③言語環境の整備
- ④多様なコミュニケーションツールの活用

参加者の感想

- ☆幼少期からの積み重ねの大切さがとてもよくわかった。
- ☆体験に基づいた話で、分かりやすく、子どもたちの状態と重ねてきくことができた。
- ☆初めてだったが家庭や学校での教育の大切さがわかった。職場で子どもたちを少しでも理解できるようにしていきたい。